

エコアクション21

# 環境経営レポート

(対象期間： 2022年11月1日～2023年1月31日 3か月)



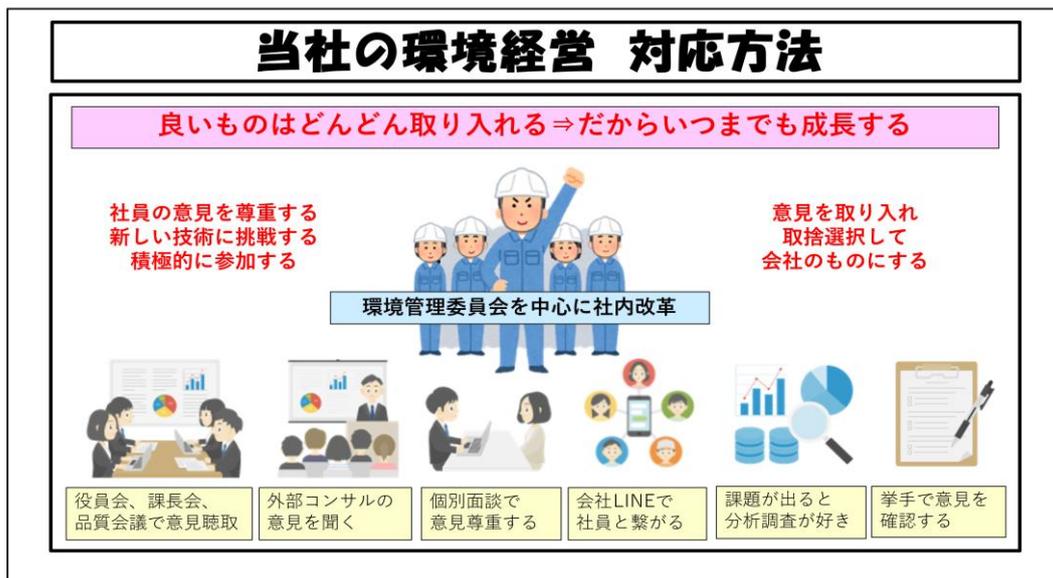
2023年2月15日発行

株式会社 テイ.エス.エス

神奈川県川崎市多摩区菅3-11-37

# 目次

1. 組織の概要	P.2
2. 対象範囲	P.2
3. 環境経営方針	P.3
4. 環境管理委員会 実施体制及び役割・責任・権限	P.4
5. 環境経営目標	P.5
6. 環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容	P.6
7. 2023年度(2022/10~2023/9)環境経営計画・実施状況評価表	P.7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	P.8
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.9



## 1. 組織の概要及び対象範囲

- ・事業者名 株式会社ティ.エス.エス
- ・代表者氏名 代表取締役 八木 惇一
- ・所在地 神奈川県川崎市多摩区菅3-11-37

(・環境管理の責任者・担当者氏名、連絡先)

環境管理責任者 中村 美恵

連絡先 〒214-0001 神奈川県川崎市多摩区菅3-11-37

Tel&Fax 044-948-1025 044-948-1026

E-mail tss-japan@mtg.biglobe.ne.jp

・サイト名称及び所在地

事業所名 本社・工場 〒214-0001 神奈川県川崎市多摩区菅3-11-37

・事業活動の内容

半導体製造装置・各種通信端末・航空機向け部品の  
精密板金加工・プレス加工、金型設計製作

事業の規模 2022年度(2021年10月～2022年9月)

売上額 3億円

従業員数 30名 (本社 30名)

延床面積 1051㎡ (土地 332㎡、家屋 719㎡)

## 2. 対象範囲(認証・登録範囲)

認証・登録対象組織

対象事業所: 本社・工場

認証・登録対象活動

精密板金加工・プレス加工、金型設計・製作

### 3. 環境経営方針

#### [企業理念・事業活動]

当社は、環境問題への取り組みを社会的責務と認識して、社員一人ひとりが環境へのやさしさを優先して行動します。

#### [行動指針]

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 電気、自動車燃料の二酸化炭素排出量を削減します。
3. 廃棄物の発生抑制、リサイクルと適正処理の推進に努めます。
4. 適正な利用によって水使用量の削減に努めます。
5. 環境に配慮した製品の製造を推進します。
6. 環境経営のためのマネジメントシステムを継続的に改善します。
7. 本方針を全従業員に周知徹底します。

2022年10月1日 制定  
株式会社テイ.エス.エス  
代表取締役 八木 惇一

## 環境経営のために出来ること

### 環境経営方針を立てて環境にやさしい取り組み

#### ベランダ菜園



八木氏が夏になると社屋ベランダできゅうり、シソなどの菜園を行い、収穫した野菜で**野菜中心の食事会**を社員みんなで行ったりする。(コロナ禍では控えた)

#### エコアクション21



エコアクション21 環境省が策定した環境マネジメントシステム(EMS)審査申請が2023年6月、審査8月で準備中。**2023年10月**に取得を予定している。

#### 太陽光自家発電



太陽光自家発電を行う予定。太陽光パネルを屋上に30枚設置パワーコンデンサー蓄電池をそろえ、屋上の土台の防水、耐震工事を施す。完成予定は**2023年11月**

#### 本社社屋耐震計画

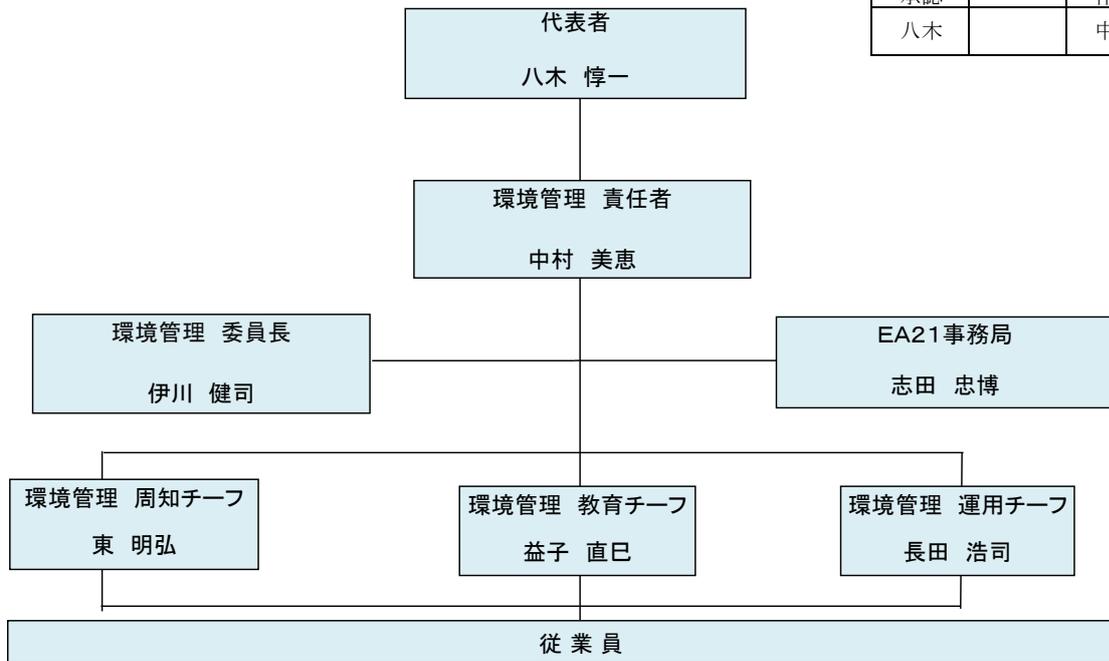


本社社屋の耐震診断を長年調査してきた本年度、社屋建物耐震申請をしており、許可が下り次第、耐震の建設を進めていく予定。完成予定は**2024年末**までに検討。

## 4. 環境管理委員会 実施体制及び役割及び責任・権限表

作成 2022年10月20日

承認		作成
八木		中村



	役割・責任・権限
代表者	1. 環境管理責任者の任命、実施体制の構築 2. 環境方針の制定の承認 3. エコアクション21を運用し、維持するための経営資源の用意をする 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. EA21EMSの社外窓口として活動する 4. 環境管理委員会を開催し、PDCAで環境管理業務をまわす 5. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 6. 環境関連文書及び記録の作成・整理
環境委員長	1. 環境管理委員会の取りまとめ役 2. 経営改善と環境への取組を一体的に運用 3. 環境管理委員会協議内容から全社的なコンセンサスをまとめていくものとする 4. 事務的な作業については、EA21事務局と協力して対応する
EA21事務局	1. 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 3. 環境目標、環境活動計画書原案の作成と実測集計、その他文書作成 4. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
各部門チーフ	1. 社内における環境経営システムの実施、環境方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施、達成状況の報告 2. 特定された項目の手順書作成及び運用管理 3. 緊急事態への対応のための手順書作成、訓練を実施、記録の作成 4. 問題点の発見、是正、予防処置の実施 5. 上記記載内容を環境管理委員会として、社内にて実行管理運営していくものとする
従業員	1. 環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する。

(回覧ルート)

社長→全部門責任者、環境管理の責任者

改訂履歴

改訂数	改訂理由	改訂月日	承認	作成者
1	初版	2022/10/20	八木	中村

## 5. 環境経営目標

作成 2022年10月20日

承認		作成
八木		中村

環境経営目標	基準(実績)			年度目標		中期目標	
	2022年度			2023年度		2024年度 (2023年10月 ~2024年9月)	2025年度 (2024年10月 ~2025年9月)
	通年(2021年10月 ~2022年9月)	運用期間相当 2021年11月 ~2022年9月	運用期間相当 2022年11月 ~2023年1月	通年(2022年11月 ~2023年9月)	運用期間 2022年11月 ~2023年1月		
1. 二酸化炭素排出量の削減	(排出量) 総量 89,062 kg-CO <sub>2</sub>	(排出量) 総量 81,099 kg-CO <sub>2</sub>	総量 25,383 kg-CO <sub>2</sub>	2%削減 79,477 kg-CO <sub>2</sub>	2%削減 24,875 kg-CO <sub>2</sub>	3%削減 86,390 kg-CO <sub>2</sub>	4%削減 85,500 kg-CO <sub>2</sub>
2. 電力使用量の削減 (二酸化炭素排出係数: 0.443kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	183,735 kWh	167,473 kWh	52,681kWh	2%削減 164,124 kWh	2%削減 51,627 kWh	3%削減 178,223 kWh	4%削減 176,386kWh
3. 自動車燃料(ガソリン) 使用量の削減 (二酸化炭素排出係数: 2.31kg-CO <sub>2</sub> /L)	3,184 L	2,863L	844L	2%削減 2,806 L	2%削減 827L	3%削減 3,088 L	4%削減 3,057 L
4. 廃棄物排出量の削減	(一廃排出量) 648kg	(一廃排出量) 594kg	162Kg	2%削減 582kg	2%削減 159kg	3%削減 629kg	4%削減 622kg
5. 水使用量の削減	(水使用量) 345m <sup>3</sup>	345m <sup>3</sup>	89m <sup>3</sup>	維持管理 345m <sup>3</sup>	維持管理 89m <sup>3</sup>	維持管理 345m <sup>3</sup>	維持管理 345m <sup>3</sup>
6. 化学物質使用量の削減	(SP-900 16L 使用量) 432kg	(SP-900 16L 使用量) 368kg	144Kg	2%削減 361kg	2%削減 141kg	3%削減 419kg	4%削減 415kg
7 コピー用紙使用削減	(A4コピー 用紙) 50,000枚	(A4コピー 用紙) 45,833枚	12,500枚	2%削減 44,916枚	2%削減 12,250枚	3%削減 48,500枚	4%削減 48,000枚
8. 着払い送料削減 (不良品率削減)	(着払い 金額) 115,900円	(着払い 金額) 93,080円	27,924円	2%削減 91,218円	2%削減 27,366円	3%削減 112,423円	4%削減 111,264円

## 6. 環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

作成 2022年10月20日

承認		作成
八木		中村

環境経営目標	基準(実績)	年度目標	取組結果とその評価(2022年11月～2023年1月)		
	2022年度	2023年度	実績	達成区分	評価及び次年度の取組内容
	運用期間相当	運用期間			
	2022年11月 ～2023年1月	2022年11月 ～2023年1月			
1. 二酸化炭素排出量の削減	総量 25,383 kg-CO <sub>2</sub>	2%削減 24,875 kg-CO <sub>2</sub>	18,369 kg-CO <sub>2</sub>	○	二酸化炭素排出量の目標値は達成したが、引き続き電気使用量のデマンド管理等のデータ管理を行う。
2. 電力使用量の削減 (二酸化炭素排出係数: 0.443kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	52,681kWh	2%削減 51,627 kWh	37,833 kWh	○	電力使用量は、情勢を確認して最安値市場を選択すること使用量の定期的管理を行う。
3. 自動車燃料(ガソリン) 使用量の削減 (二酸化炭素排出係数: 2.31kg-CO <sub>2</sub> /L)	844L	2%削減 827L	679 L	○	ガソリン料金が、助成金が無くなるために2023/9月末から一斉値上げが行われる状況である。いかに効率よく配達、納品、営業周りをするか都度検討する。
4. 廃棄物排出量の削減	162Kg	2%削減 159kg	65kg	○	ごみの減量、リサイクル行動の励行によって排出量を削減する
5. 水使用量の削減	89m <sup>3</sup>	維持管理 89m <sup>3</sup>	維持管理 117m <sup>3</sup>	×	社員の人数が増えると水道使用量が増える。管理方法を検討することが必要だとわかった。一人当たりの水使用量は節水継続
6. 化学物質使用量の削減	144Kg	2%削減 141kg	96kg	○	化学物質使用量はの目標値を達成したが、引き続き監視し無駄な使用を削減する。
7 コピー用紙使用削減	12,500枚	2%削減 12,250枚	10,000枚	○	紙媒体からデータ活用に変更して紙の使用量削減を引き続き行う。
8. 着払い送料削減 (不良品率削減)	27,924円	2%削減 27,366円	3,730円	○	不適合品の発生原因は、当社マレーシア工場に起因することが多い。日本製の励行と日本での確認作業が功を奏してきた。続行する。



## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

作成 2022年10月20日

承認		作成
八木		中村

法令、条例、名称	規制内容等	該当設備等	点検・測定 頻度・実施 時期など	遵守評価
騒音規制法	・指定地域内における特定施設の届出	機械プレス 空気圧縮機	設置時	○
	・騒音の測定			○
	・規制基準の遵守義務 指定地域内に特定工場等 を設置しているもの			○
振動規制法	・対象特定施設の特定	機械プレス 空気圧縮機	設置時	○
	・特定施設設置の届出			○
	・特定施設の変更等の届出			○
川崎市郊外防止等 生活環境の保全に 関する条例	・川崎市郊外地域における騒音・振動・臭気等の規制	機械プレス 空気圧縮機	設置時	○
資源有効利用促進法	・資源の有効な利用を促進し廃棄物の処理にかか る環境への負荷を軽減し、資源の枯渇を抑制する	保管場所	毎日 現物確認	○
廃棄物処理法	・廃棄物の排出の抑制	保管場所	毎日 現物確認	○
	・適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理			○
	・生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る			○
	・マニフェスト管理、記録保管	管理表	5年間	○
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告	管理表	毎年6月30日まで	○
家電リサイクル法	・エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機・衣類乾燥機の リサイクルの義務と廃棄時の収集運搬料金と リサイクル料金の支払い	家電製品 4品目	廃棄時	該当なし
	・エアコンの社内簡易点検	エアコン	毎月	○
	・廃棄時の適切業者への引き渡し		廃棄時	該当なし
・直接フロン類回収業者に依頼時は「回収依頼書」を交付、 フロン類回収業者からは「引取証明書」を入手				
消防法	・消防用設備の点検、防火責任者、避難訓練実施	消防用設備	年1度	○
労働安全衛生法	・職場における労働者の安全と健康を確保	労働者	随時	○
	・健康診断の実施と検査結果の指導と保管		年1度	○

\* 環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。  
なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

### (1) 全体評価

エコアクション21を構築し、〇ヶ月の運用期間を経て目標の達成状況、計画の実施状況及び法規等の遵守状況を見る限り、十分とは言えないものの主要な環境活動は概ね実施できた。従って環境方針は変更しないが、活動テーマによっては改善の余地が残されており、今後社員が一丸となってシステムの充実と改善に取り組んでほしい。

### (2) 見直しの結果

- ① 二酸化炭素の排出では、電力使用量の削減はぎりぎり目標を達成したが、ガソリン使用量の削減は目標を達成できず、結果的に両者合計の二酸化炭素排出量は目標を達成できなかった。ガソリンの未達原因をしっかりと究明し来年度の目標達成につなげていく。環境目標は変更しない。
- ② 従来、廃棄物排出量を把握していなかったが、分別の徹底と定量把握ができたことから来年度の目標設定が可能となった。新たに排出量削減の目標を設定する。
- ③ 水使用量の削減は、目標未達の原因を究明し、掲げた対応策の実施に留まらず一人ひとりが自覚を持った上で来年度の目標達成を期す。環境目標は変更しない。
- ④ 環境配慮施工の新規開発に着手し、当社の新たなビジネスにつなげていきたい。目標は継続する。
- ⑤ システム構築に際し、該当法規等の調査検討に注力したせいか適用事項が明確になり、取り組むべき対象が具体的に把握できるようになった。とりわけ緊急事態につながる可能性の高い危険物管理(消防法)、苦情が想定される騒音対策に万全を期すこととする。そして今後とも新たな法規制情報の収集に努める。

### 代表者評価

当社が、CO2削減に向けて動き出してまだ間がないけれど、すごくがんばっていると思う。社員全員が同じ方向に前向きに取り組める環境に良い会社にしていきたい。数値による分析で改善すべき事柄が明らかになり、社員皆がわかりやすく、社員皆が取り組めるようになった。今後ともこの状態を維持していけるように、朝礼を活用し、発表の機会等を持たせたい。

無駄のない効率良いものづくりで、CO2削減を実現していきたい。

2023年2月10日  
株式会社テイ. エス. エス  
代表取締役 八木 惇一

